

幼児教育の特色

和田 實

單に學校教育と家庭教育とを比べても兩者に特色あることは云はでもの事ではあるが、殊に此幼児教育と通常の少年を教育するのとは大分違つて居る所がある。一寸考へると教育に二色はない筈であるから同じ教育に有益な事なら誰にも害のあらう筈はなからうと思はれないでもないが是は大なる誤りで實際は適當な時期に適當な仕事を仕向けなければ何の役にも立たぬ許りではなく却つて有害な結果を生ずることになるのである。然らば幼児教育には何んな特色があるかと云ふに第一には凡て幼児教育上の仕事は大きな子供に課業的に強いても行らせるのとは違つて全然遊嬉的であることである。一体幼児と云ふものは、食ふこと、寝ること、遊ぶこと三つの外に生活はないものである。故に一寸見ると何か作つたり、學んだりする様に見えても夫れは皆遊ぶ爲めに行るので決して大きい子供の様に課業だからするなど

云ふ譯には逆も行かないのである。従つて其教育の材料も手段も悉く遊嬉を離れることが出来るのである。一口に云へば幼児教育と云ふものは幼児の遊嬉を種々に取り扱ふ事によりて其体育を計り心的發達をも誘導するものである。勿論小學校時代の教育にも遊嬉は必要なのであり有効なものでもあるけれど併し小學校時代以上の教育には遊嬉以外教育の材料も手段も澤山あつて決して遊嬉ばかりと云ふことは出来ない。然るに幼児には遊嬉以外教育の材料とす可きものがない。而して事實幼児と云ふものは此遊嬉に依つてのみ發達して行くものである。故に幼児教育の特色は其材料も手段も遊嬉の範圍外に出でず全然遊嬉的であることである。

第二には幼児教育は記憶的學習的ではないと云ふことである。幼児の教育が遊嬉的であることが認められる以上は是は當然の順序として認めなければならぬことである。一般に子供は能く人真似をする、そして人の動作言語を模倣し朋友の技術を模倣するものであるから外觀では恰も子供は斯

くして熱心に事物を學習し記憶する爲めに活動して居る様に見えるが決してそをではないので實は面白く遊び楽しく暮さんが爲めに努めるので若し夫れが思つた程に面白くもなく楽しくもないものなら子供は忽ち止めてしまふもので決して自ら學修を記憶せんと意識しては居ないのである。故に幼児の教育は凡べて娛樂的嬉戲的のものであると云はなければならぬ。従つて子供を遊ばせて居る時、或は子供に話をして遣つて居る時今一步進めば話もまとまりがつく教授としても完全するなど考へて無理をしようとしても子供はなか／＼承知しないので興味がつかればドシ／＼去つてしまふと云ふ風である。此邊の具合を心得て居つたら子供を扱ふにも便利があるだらうと思ふ。

第三には幼児教育の大体は保護的にして鍛練的なりと云ふことである。其心身がかよわくて動もすれば損じ易いものであるから、少しでも無理をす譯に行かないものであるから何かにつけて控目に勤辨して行らなければ取つて返しがつかぬ事となる。それに外部に對する抵抗力が少ないのである

るから危險に遭遇することが頗る多い従つて常に之を擁護する必要がある。即ち幼児教育は保護的であるといふ次第である。併し保護ばかりでは何時迄経つても子供を強くすることが出来ない、子供を強くするには之を鍛練する必要がある。鍛練といふと無理と云ふことと衝突する様に思へるが是は程度問題であるし夫れに子供の趣く方向に添ふて鍛練的に進むと云ふことは決して六ヶ敷い事ではないから幼児教育者としても子供を鍛練的に扱へぬと云ふことはない希臘の碩哲プラトーンも云つたではないか「一定の遊戲を變更することなく繼續させたならば夫れは以て陶冶の手段とする」とが出来る」と此言葉は延きて生理上にも適用することが出来ると思ふのである。

第四には學校教育は多數の兒童を同時に取り扱ひ得るに於て一特色を持つて居る、命令も一般的に發する事が出来るし動作上の模範も同時的に一般的に示すことが出来る。けれど幼児教育に於ては之は殆んど爲し難き處である、従つて凡べてが個人的に取り扱はなければならぬと云ふ必要

がある。殊に其訓練の方面などは尙更の事で其個性々々に應じて適應の處置を採る必要がある。要するに幼児教育の特色とも云ふ可きは一般に遊嬉的、娛樂的、保護的であつて而も個人的鍛練的である。と云ふことである。

從來我國の幼児教育は餘り嚴重に過ぎ威嚴に過ぎ禮儀作法に傾き、課長的、勤務的に傾いて居つた。武家の教育と云ひ寺子屋の教育と云ひ何れも之を證據立てるものである。是は一方に邦人の眞面目なる氣風を表出するもので歴史的には誠に結構な事であり、且又我國今日の發展も實は國民が此邊の氣風に原因するものと思へば過去は決して咎める必要はないが自然主義を以て教育の根本原則として居る今日以後の教育には決して取る可きものでないと思ふ。然るに明治維新以來今日に至りても未だ中々に此嚴格主義や課業主義に氣付かず居る人が多いので動もすれば幼児に無理をして得意で居るものがある。従つて幼稚園などに子どもを出すと早熟して不可いとか神經が過敏になつて困るとか云ふ攻撃や餘り物を教へ過ぎるとか

法律が立ち過るとか云つて反對される譯である。兎に角幼児教育者は其教育と夫れ以上の教育と如何なる差別特色を有す可きかを常に心得て保育し誘導したならば決して世人に兎や角云はれることはなからうと思ふ。

四

今から一年前に、ゴルドン、セルフリッヂといふ人の娘で名もロース、マッド(薔薇の芽)と呼ぶ可憐なる十二歳の一少女が、米國のシカゴで、其幼な友達のために「は、き」題せる月刊雑誌を發行した所が意外の成功であつたので、此の上へは一層の事に倫敦で發行しやうと思立ち其父と同道ではるる同地へと赴いた同雑誌は現に今でも發行して居るか四頁に附録添へといふ体裁で去る七月の號には白雲宮(米國議會)の寫眞に横一文字に「The Will. Wisp」の盛運を祈る、一九〇六年四月十二日、テオドル、ルーズヴェルト」と米國大統領の自筆で書いたものが附録にしてあつた。廣告も澤山あつて却々うまく編輯がしてあるさうだ